

1.研究テーマ

文系産学連携による島根県浜田市の食品産業振興に向けた大学の役割

ーソーシャル・キャピタル論からのアプローチー

2.結果概要

本研究の目的は、文系産学連携による島根県浜田市の食品産業振興に向けた大学の役割を明らかにすることにある。島根県浜田市は、県西部の中核都市としての役割を担う一方で、その産業規模は縮小傾向にある。その原因のひとつに、地域内におけるネットワーク（連携）が希薄化している点に着目し、その改善に向けて文系産学連携に焦点を当てた。その理由は、第一に産学連携のなかで学を担う学生や教員はビジネスとは異質な立場にあることから、彼らには産業界に新たな風を吹き込むことが期待できること。第二に、浜田市には文系大学である島根県立大学浜田キャンパスが立地していることに起因する。更に、本研究では対象産業を食品産業に絞ると同時に、文系産学連携のなかでも大学の役割という観点から研究を試みた。そのため、本研究では文系産学連携による島根県浜田市の食品産業振興に資する方策を大学の役割という観点から明らかにした。なお、文系産学連携が一種の繋がりであることから、本研究は「ソーシャル・キャピタル論」のフレームワークを用いている。

はじめに、先行研究からソーシャル・キャピタルの定義と類型、それを踏まえて文系産学連携の定義と類型、大学の役割をそれぞれ整理した。そこから本研究における分析軸を導出し、分析軸にはイニシアティブを発揮する「先導役」、異質なアクター同士を結び付ける「コーディネーター役」という2つの大学の役割を定めた。

次に、浜田市内の企業、大学、支援機関という異なる立場にある3機関にインタビュー調査を実施し、その結果から浜田市の食品産業振興に資する文系産学連携の現状と、それを踏まえた課題を導き出した。課題は分析軸に沿って明らかにし、先導役については「街づくりの新たな担い手」と「文系産学連携ガイドラインの策定」、コーディネーター役は「産学によるマッチング機会の創出」と「助成金制度の制定に向けた働きかけ」がそれぞれ課題に挙げられた。なお、産学によるマッチング機会を創出するためには「企業理解」、「企業向け情報発信」、「産学交流の場の創出」、「マッチング機能のシステム化」という更に細分化された4つの役割を担う必要があることを整理した。

以上の諸課題を踏まえ、次に他大学による取組状況を2013年度から権田酒造株式会社と産学連携プロジェクトを実施する立正大学の研究推進・地域連携センターへのインタビュー調査ならびに文献調査の結果から整理した。具体的には、基本情報、取組事例、果たしている役割、文系産学連携を阻む障壁という4項目に分けてインタビュー調査および文献調査の結果をまとめた。果たしている役割としては、問い合わせから案件開始までのプロセスや研究シーズの公表、地域コーディネーターの登用と活用などといった同センターによる独自の取組みが挙げられた。そして、調査結果を踏まえて島根県浜田市の食品産業振興に資する文系産学連携の諸課題を解決し得る方向性について分析軸に沿って考察を加えた。具体的に言えば、先導役については「新たな街づくりへの着手」、「文系産学連携ガイドラインの策定」、コーディネーター役については「産学によるマッチング機会の創出」、「助成金制度の制定に向けた働きかけ」の各2点の課題に関してそれぞれの解決の方向性を示した。

最後に、文系産学連携による島根県浜田市の食品産業振興に向けた方策を大学の役割発揮という観点から提言した。まず先導役については、スモールスタート&スローディベロップメントに基づく街づくりの必要性とともに、大学間ネットワークによる文系産学連携ガイドラインの策定について提言した。次にコーディネーター役については、4つの役割に細分化される産学によるマッチング機会の創出と、助成金制度の制定に向けた市・県への効果的なアプローチ方法の実施を提言した。なお、マッチング機会の創出に向けた大学の役割発揮に関する方策としては、文系学生による企業理解の促進、研究シーズ公表による企業向け情報発信、KENDAI縁結びフォーラムの活用による産学交流の場の創出、マッチング機能のシステム化の4点が提言である。